

広報



9

2012
No. 89

ようこそ若狭町へ



(レインボーライン山頂公園：若女将インターン生)

最初の一步を踏み出そう



近年、子どもや若者をめぐる環境が悪化し、ニートやひきこもり、不登校など、子どもや若者が抱える問題が複雑化、また深刻化してきています。

国では、子どもや若者が社会生活を円滑に営むことができるよう支援をする「子ども・若者育成支援推進法」を施行しました。

若狭町においても、今年4月に「子ども・若者サポートセンター」を上中庁舎に開設し、子どもや若者が抱える問題の一つひとつを解決するために、相談や支援を行っています。

今回の特集では、この「子ども・若者サポートセンター」についてご紹介します。

■複雑化・深刻化する問題

①若年無業者の状況

内閣府の報告では、15～34歳の若年無業者の数は平成23年は60万人となっています。そのうち「就職を希望しているが、求職活動をしていない」理由として、「病気やケガのため」が28.9%と約3割を占め、次いで「学校以外で進学や資格取得などの勉強をしている」が11.8%、「知識・能力に自身がない」が10.4%と続きます。

さらに、「就業を希望しない」理由としては、就職を希望する人の理由と同じく「病気やケガのため」が31.5%と最も高くなっていますが、「特に理由はない」も17.2%と高い数値を示しています。

②ひきこもりの状況

内閣府が調査を行ったところ、ひきこもりに該当する子どもと若者の数は約70万人とされます。うち、「家から出ない」が約8万人で、「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事するときだけ外出する」準ひきこもりとされる数が約46万人にのぼるとされています。

また、ひきこもりになったきっかけとして「病気」の23.7%に対し、「職場などになじめなかった」も23.7%にのぼり、「就職活動などがうまくいかなかった」が20.3%と続きます。

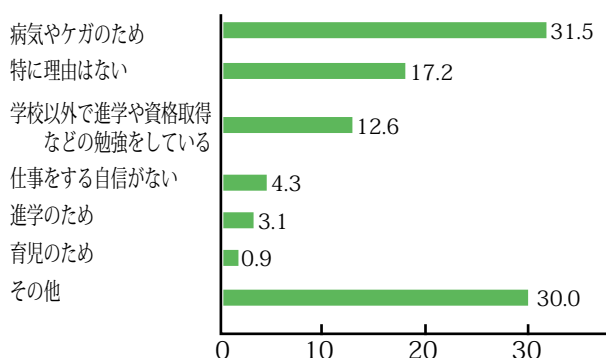
③子どもの貧困

ひとり親の家庭など、大人がひとりで子どもを養育している家庭の相対的貧困率は50.8%、大人が2人以上いる家庭では12.7%となっています。

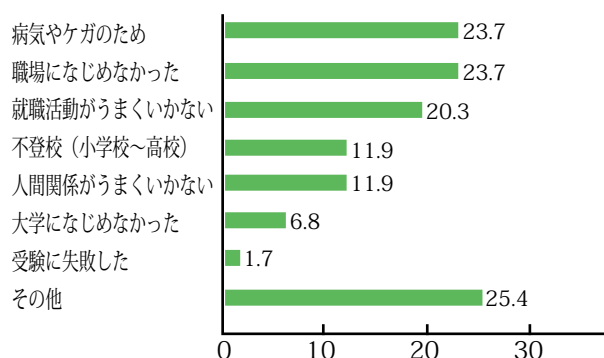
相対的貧困率とは、国民一人ひとりの所得を順番に並べたときに、平均の所得より少ない人の割合で、数値的にいえば、ひとり親の家庭などは、経済的に困窮しているという実態がうかがえます。



①若年無業者の就業を希望しない理由



②ひきこもりになったきっかけ



資料：内閣府「平成 24 年度版子ども・若者白書」
総務省「就業構造基本調査」
内閣府「若者の意識に関する調査（ひきこもりに関する実態調査）」

若狭町子ども・若者サポートセンターをご存じですか？

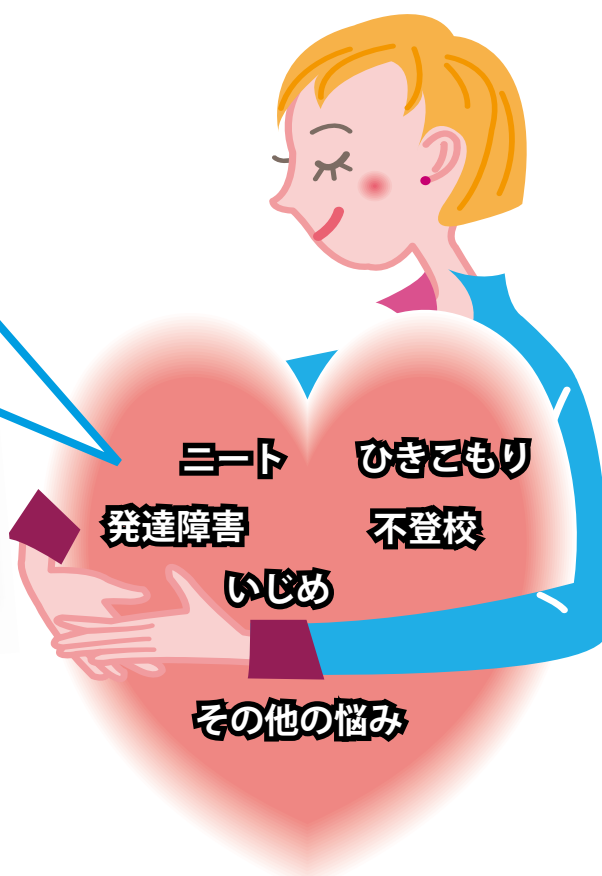
若狭町子ども・若者サポートセンターでは、ニートやひきこもり、不登校で悩む 0 歳～おおむね 40 歳までの子どもや若者、または、そのご家族の方からの相談を受け、どのような支援が必要かを一緒に考え、各関係者の方と連携して、その人のケースに合った方法で問題を解決する窓口です。

このようなことで悩んでいませんか？

家から外に出られない・・・
仕事が見つからない・・・
人と話すのが苦手・・・
子どもの将来が不安・・・
働きたいのに動き出せない・・・
何もやる気が起きない・・・

相談は無料です。
また、相談での秘密は守られます。

ひとりで悩んだり、頑張り過ぎたりしないで、まずはお気軽にご相談ください。その一歩が解決につながります。電話でのご相談もお受けしています。





若狭町子ども・若者サポートセンター

センター長 藤井 宏三 さん

困難や悩みを抱える多くの子どもや若者に寄り添い、ともに歩みを進める。そして少し元気が出てきたら、そっと肩を押してあげ、一步でも半歩でも前へ歩みを進めてもらう。相手の立場に立って考える、発言する、行動することが「支援」の基本的な心得や態度だと考えています。

また、このような若者たちがいずれ就職をして、健康的で自立した社会生活を過ごしてもらうことが、我々サポートセンター職員の願いであり、目的でもあります。

どうか、自分ひとりで悩みを抱え込まないで、まずはお気軽に当センターへご相談ください。

若狭町子ども・若者サポートセンター

相談員 中村 佐代子 さん

自分の気持ちを知っているのは自分だけ。しかし、その自分ですら自分の気持ちに気づいていないことってありませんか。例えば、気持ちと裏腹な行動をとったり、本当はつらいのに笑顔でいたりしていませんか。そんな時は、私と話ませんか。あなたの状況やあなたの気持ちを話しながら一緒に見つめてみましょう。対話には浄化作用があると言われています。対話をすることで、心の中に押し込められた気持ちを探して、あなたの解決したい方法を一緒に探しましょう。

当センターの中村は、あなたの気持ちに寄り添いたいと思っています。



若狭町子ども・若者サポートセンター

相談員 大場 直子 さん

若者や子どもたちが、笑顔で生き生きと過ごせる地域・社会になることを願っています。

これまでもそんな想いで一人ひとりの気持ちを受け止め、一緒に泣いたり、そして笑ったりしながら自立支援や就労支援に携わってきました。

たったひとりで一歩前に踏み出すことには大きな勇気が必要です。何か始めたいけど、何をどうしていいのか分からなかったり、人間関係で悩んでいるなど、あなたが不安に感じていることがあれば、ちょっとだけ勇気を出してお問い合わせください。

あなたからのご相談をお待ちしています。

こころの病気は、支え合うことが大切です

こころの病気は誰でもかかる可能性があります。そんなとき家族や友人など、身近な人たちの支えは大きな安心感になります。

■普段から身近な人たちに相談できるようにコミュニケーションをとりましょう。

日々の生活の中で、私たちはさまざまなストレスに囲まれて生活しています。

そのため、落ち込んだり、イライラすることもあるでしょう。一人で解決するのが難しいことに会うこともあるでしょう。

そんなとき、身近に相談できる家族や友人、知人がいることはとても大切で心強いものです。親しい人、身近な人に困っていることを話すだけでも、自分の状況を冷静

に整理できたり、気持ちが楽になります。

ご家族をはじめ、職場の上司や同僚、学生時代の友人、趣味の仲間など、普段から相談しあえる関係を築いておくと、いざというときに大きな助けになります。



■もし、身近な人がこころの病気になってしまったら

あなたの近い人が病気になったら、誰もが心配します。きちんと治療をうけて、早く治るようにとところから願うことと思います。

しかし、力になりたいと思う一方で、どうしてよいか分からなくなったり、疲れたり、将来の不安に悩むこともあります。

周りにいる人は、まず、時間をかけてじっくりと聞いてあげてください。そのとき、

話のつじつまが合わなくても、変な思いこみをしていても、否定するようなことは言わないようにしましょう。

相手の目をみてうなずいて聞くだけでいいのです。それだけで、患者さんの気持ちはとても落ち着きます。

ご家族ができる最良の支援は、この「話を聞く」ことだといえます。

■ご家族の方を支援するのもサポートセンターの大切な役割です。

家族など身近な人がこころの病気になると、周りの人は「この人のこころを追いつめたのは私だ」、「自分のせいだ」などの思いにとらわれがちになります。

特にその人の近くにいて心配している人ほどこういう思いが強くなり、不安や絶望感にとらわれます。

そうすると、本人だけではなく、そのご家族の方がうつ状態になり治療が必要にな

ることも珍しくありません。

当センターでは、ご本人だけではなく、ご家族の方の相談にも応じ、こころの病気に対して、意欲や希望へ導く役割を担っています。

ひとりで悩みを抱え込まないで、ご家族の方もお話しから始めましょう。それが解決へ向けた一歩を踏み出すきっかけとなります。

若狭町子ども・若者サポートセンター

住 所：若狭町市場 20-18

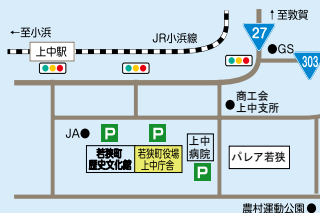
若狭町役場上中庁舎 2 階

相談受付：9 時 00 分～18 時 00 分

(土・日・祝日を除く)

電 話：0770-62-2886 (直通)

電子メール：support@town.fukui-wakasa.lg.jp



▲サポートセンターの相談室

まちの話題

※広報紙に「あなた」の写真が写って
いましたらご連絡ください。
写真をさしあげます。
(総務課 TEL45-9109)

▶ 大型クレーンが橋桁を持ち上げる
様子を見学する児童ら



モノづくりってすごい! (7/18)

鳥羽小学校の児童が、建設中の舞鶴若狭自動車道鳥羽川橋の橋桁設置の様子を見学しました。

この見学会は、児童らがものづくりに興味を持ち、働く人の苦労や工夫、やりがいを知ってもらおうと同橋の施工事業者が企画したものです。

見学会では、測量機械を使った計測や工事に使用するボルトの締め付けを見学したほか、450 t 吊りの大型クレーンの作業の様子を見学しました。

大型クレーンが、長さが 47.6 m、重さ 65 t の橋桁を軽々と吊り上げると、児童らは「すごいなあ」と歓声を上げながら橋桁を見上げていました。



安全運転を心がけて (7/19)

夏のレジャーシーズンに合わせて、ドライバーへの交通安全を呼びかける「夏の交通安全茶屋」が熊川宿の西口駐車場で行われました。

この取り組みは、レジャーシーズンで車が込み合ったり、運転に疲れたりと事故が起きやすくなることから、ドライバーに交通安全意識を高めてもらおうと行われています。

当日は、上中交番・駐在所連絡協議会のメンバーら約 20 人が参加し、ドライバーや同乗者に「事故に気をつけて、安全運転してください」などと呼びかけながら、啓発チラシや飲み物を手渡していました。



▲ドライバーに安全運転を呼びかける参加者



▲講演する小高教授



細川幽斎と若狭 (7/22)

第 2 回歴史環境講座が若狭町歴史文化館で行われました。

講座では、中京大学国際教養学部教授の小高道子さんが「細川幽斎と若狭」と題して、戦国武将で、当代きっての文化人であった細川幽斎の功績について説明しました。

幽斎は、夫人が熊川城主の沼田光兼の娘・麿香^{じゃこう}であったことから若狭に縁の深い人物です。

小高教授は、「幽斎がいなかったら江戸時代以前の文化を伝承できなかっただろう」と話し、訪れた約 80 人の参加者は、若狭にゆかりのある人物の功績について興味深く話を聞いていました。



野球もみんなで応援 (7/22)



▲炎天下の中で奮闘するエレファントの選手ら

プロ野球独立リーグ（ＢＣＬ）の福井ミラクルエレファントと富山サンダーバーズの公式戦が美浜町民広場野球場で開催されました。

この日は、「若狭町の日」として町の特産品などが販売されたほか、試合の中でも町の観光ＰＲが行われました。

試合前のセレモニーでは、美方高校の合唱部が国歌を斉唱し、その後、始球式を務めた森下町長が見事なストライクボールを投げ試合が始まりました。

試合は、初回から幸先良く先制した福井ミラクルエレファントでしたが、中盤で追いつかれてしまい、残念ながら逆転負けを喫してしまいました。

しかし、試合の間には「ワカサアーイナ」がフラダンスを披露して会場を盛り上げ、来場者も選手たちと同じく最後の一球まであきらめずに大きな声援を送っていました。

▶始球式で投球する
森下町長



▲守備につく選手を送り出す
酒井監督（写真左端）ら



▲国歌を斉唱する美方高校合唱部の生徒ら



▲フラダンスで会場を盛り上げる
ワカサアーイナのメンバーら



◀園児と屋外で
触れ合う生徒
（中央保育所）



保育から学ぶこと (7/23～25)

美方高校の生徒が、町内の保育所で保育実習を行いました。

実習には同校生活情報科の１年生３０人が参加し、生徒たちは園児たちと３日間を過ごしました。

保育実習は、子どもたちとの触れ合いを通じて命の尊さを学ぶだけではなく、相手を理解することで、自分自身を見つめ直すことを目的に行われています。

中央保育所での保育実習に参加した岡田悠花さんは、「中学校のときにも保育実習があって体験をしていますが、思っている以上に大変です」と話していました。

▶園児と室内で
触れ合う生徒
（みそみ保育所）





▲指導者から泳ぎ方について習う児童ら



手は真つすぐ"に (7/24 ~ 8/4)

スポーツクラブわかさが主催する子ども水泳教室がB & G海洋センターで行われました。

教室には、町内の小学生約 120 人が 4 つのコースに分かれて参加し、初心者から上級者まで、それぞれレベルに合わせて指導者から泳ぎ方を学びました。

指導者は、「泳ぐとき、手は真つすぐ伸ばして、その手でしっかりと水を後ろへ押し出す」と、児童らにわかりやすく説明をしていました。

また、10 日間の指導期間のうち 4 日間は、国際ジュニア大会の日本代表ヘッドコーチを務めた堂下雅晴さん（福井市）が特別講師を務め、児童らは堂下講師から「楽に泳げる方法」を学びました。



岩屋梨が台湾進出 (7/24)

岩屋梨の穂木^{ほぎ}を台湾へ出荷する際にウイルスなどがいないかを調べる防疫検査が岩屋の梨園で行われました。

検査には、台湾動植物検疫防疫官と名古屋植物防疫所の輸出検疫担当者が訪れ、輸出対象となる穂木の母樹を一つひとつ調査しました。

台湾でも梨は人気があるフルーツですが、冬の気温が高いために花芽がつかず、実をつけることができないので、台湾では穂木を毎年直接ついで栽培しているそうです。

今回の輸出検査を受け、特に問題が無いと判断されたため、今年 11 月頃から岩屋梨の穂木が本格的に台湾へ出荷される予定です。

※穂木 …… 挿し木や接ぎ木をするとき使う枝のこと



▲圃場を調査する検疫担当者



工事現場とアートの融合 (7/25)

建設中の舞鶴若狭自動車道鳥羽川橋の工事現場に防音を兼ねた仮設の壁面に美方高校美術部の作品が展示され、その除幕式が行われました。

この取り組みは、自動車道の整備を進める中日本高速道路敦賀工事事務所が同校へ依頼したもので、同校美術部員が先に開催された敦賀市総合美術展へ出品した 21 作品を、拡大プリントして展示してあります。

敦賀工事事務所の川北眞嗣所長は、「現場の人にとって橋も作品です。みなさんの作品を手本にする気持ちで工事を進めたい」と話していました。

生徒らの作品は、「鳥羽川橋ギャラリー」として 12 月頃まで展示される予定です。



▲作品の前に並ぶ生徒ら



◀井出プロから
指導を受ける
児童ら

▶グリーンでパットの
練習をする児童ら



プロがゴルフを指導 (7/25 ~ 8/7)

わかさカントリー倶楽部で子どもゴルフ教室が行われました。

ゴルフ教室は、児童らにゴルフの楽しさを知ってもらおうと町の教育委員会と同倶楽部が毎年行っているもので、プラスチック製のクラブでテニスボールのようなボールを打つスナッグゴルフでの指導が期間中に計4回行われました。

ゴルフ教室では、参加した町内の小学生9人が、同倶楽部に所属する井出努プロや高村知範プロからクラブの握り方やフォームなどゴルフの基礎を教わりました。

参加した6年生の小嶋陸くん(上瀬)は、「4年生のときから参加している。上達することがうれしい」と話していました。



同じ若狭でつながろう (7/28)

若狭町出身者でつくる東京若狭会のメンバーが、埼玉県所沢市にある若狭四丁目で行われた納涼祭に出店し、若狭町をPRしました。

出店は、NPOふるさと回帰支援センターへ向いている町職員が、所沢市を通じて同町内会と知り合ったことから実現しました。

今回、東京若狭会のメンバー5人と町職員3人が参加し、葛まんじゅうや野菜、梅製品などを販売しました。

納涼祭に参加した住民からは、「若狭町はどんなところ?」、「一度若狭町を訪れてみたい」などと興味を示してもらったり、「このような交流を続けてほしい」との声が聞かれました。



▲特産品を販売しながら住民と交流する参加者ら



生産者に元気と感謝を (7/30)

伝統野菜を使った村おこしに取り組んでいる山内かぶらちゃんの会が、「山内かぶら元気アップセミナー」を山内集落センターで行いました。

セミナーでは、福井市にあるレストランジャルダンの取締役総料理長で、現代の名工のひとりにも選ばれている黒味傳さんが「生産者の方との心のつながりについて」と題して講演しました。

黒味総料理長は、「生産者が一生懸命つくった食材を、使う者は感謝して使わなければいけない。生産者も評価されると嬉しいし、元気になる」と、生産者と料理人には心のつながりが大切であると参加者らへ訴えかけました。



▲講演する黒味総料理長



未来の日本代表を目指して (8/1)



▲サーブの打ち方について指導する荻野さん

元オリンピック男子バレーボール日本代表で、町のふるさと大使を務めている荻野正二さん（サントリーサンバーズヘッドコーチ）によるバレーボール教室が三方体育館で行われました。

教室には、嶺南地域のスポーツ少年団などから約130人の選手が参加し、荻野さんからレシーブやスパイク、サーブなどバレーボールの基本について指導を受けました。

荻野さんは、「オリンピックは、ここにいる誰にでも出場できる可能性がある。一人でも多くの人に出て欲しい」と、未来の日本代表になれるようエールを送りました。



暑い夏は名水で涼 (8/4)

若狭瓜割名水まつりが若狭瓜割名水公園で行われました。

まつりの名物となっている名水流しそうめんには多くの人で行列ができ、名水で流れてくる冷たいそうめんを何度もすくって食べていました。

また、瓜割の滝のそばでは、煎茶道方円流による野点茶会が開かれ、地元の三宅小学校の児童らが作法にのっとった野点を披露しました。

ほかにも、昼間のステージでは、大道芸人によるジャグリングショーや仮屋フラガールによるフラダンスショーなどが行われ、夜には、演歌歌手の山本智子さんの歌謡ショーや花火などで賑わいました。

瓜割の滝周辺は周りよりもひと際涼しく、訪れた人たちは、川などに足を浸けて過ごすなど、夏の暑さを癒すように、名水で涼をとっていました。



▲冷たい流しそうめんを食べる来場者

▶名水で冷やされた
スイカとマクワウリ



▲川の流れて涼しむ親子ら



▲大道芸人による炎を使った
熱いジャグリングショー



▲仮屋フラガールによる
フラダンスショー



◀ 講演する
中川教授

▶ 講演する
多田教授



世界基準のしましま (8/5)

第3回歴史環境講座が三方ショッピングセンターレピアで行われました。

講座では、「湖のしましまからわかること」と題して水月湖のボーリング調査について、2006年に調査した英国ニューカッスル大学教授の中川毅さんと、今年7月に調査した東京大学教授の多田隆治さんから研究報告されました。

中川教授からは、「水月湖で調べた年縞を使い、世界各地で採取したものの年代を調べることができるなど、地質学的時間の世界基準となる」と話し、多田教授からも「水月湖の年縞は、黄砂の飛来についても調べることができる大変貴重な資料だ」と、水月湖だからこそ得られるデータの重要性を強調しました。



若女将奮闘中 (8/6 ~ 17)

町内の民宿で女将の仕事を体験する若女将インターンが12日間の日程で行われました。

全国から参加した大学生ら14人は、常神と神子の民宿にそれぞれ1人ずつ入り、接客や掃除、配膳などを体験しました。

神子の民宿「竹中」で若女将を体験した神戸夙川学院大学の青枝沙耶さんは、「手際よく段取りを進める女将さんはすごい」と話し、「お客さんもまるで家族のようなアットホーム感が民宿の魅力」と、民宿ならではの魅力を肌で感じていました。

今回体験した内容などは、参加者らのブログやフェイスブック、ツイッターなどのソーシャルメディアで発信されました。



▲ 民宿の女将から料理の盛り付け方を教わる
インターン生 (写真左)



夜の博物館できもだめし (8/10)

若狭三方縄文博物館で「ナイトミュージアム・親子できもだめし」が行われました。

この企画は、夜の博物館できもだめしをして多くの方に、普段とは違う博物館を楽しんでもらおうと行われているもので、町内外から27組、約70人の親子が参加しました。

シアターで2人の怪談師から怖い話を聞いてから1組ずつの親子がうす暗い館内へ案内されていきました。

今年で3回目となるナイトミュージアムでは、驚かす側の職員による仕掛けも手が込んでおり、館内には参加者の驚いた悲鳴が響いていました。



▲ 館内に設置された仕掛けに驚く参加者

きずな

絆

～対話と実行～

若狭町長 森下 裕

「6年後の福井国体に向けて」



国体マーク

毎年開催されている国内最大の国民スポーツの祭典と言えば「国民体育大会（国体）」です。

福井県では、2018年に2度目の国体開催を目指して準備を進めているところです。

7月末に国民体育大会福井県準備委員会総会が開かれ、若狭町では二つの公開競技を実施することになりました。

公開競技とは、都道府県対抗の得点対象とならない競技で、生涯スポーツの推進を目的に行われます。勝敗はもちろんです、健康増進や参加者同士の交流を楽しむことが大切な要素となっています。

若狭町で実施が決定した「ゲートボール」と「グラウンドゴルフ」は、年齢を問わず、

幅広い年代の方が同時に楽しむことが出来るスポーツです。

どちらの種目も愛好者が多く、それぞれの協会を中心に大会を盛んに開催され、町内の方はもちろん、県内外の方とも広く交流を持たれていると伺っております。

若狭テクノパークのグラウンドゴルフ場を整備した時には、グラウンドゴルフ協会の方が自ら芝張りなどの整備を申し出てくださり、皆様のパワーに大変感激いたしました。

今回の二つの公開競技の決定にも、両協会の皆さんの熱い思いが伝わったものだと思っております。

国体でのそれぞれの競技想定参加者数は、選手・役員で約650人、応援や関係者を含

めるとさらに多数となることが予想されます。

今後、芝生広場など会場整備を進め、国体を契機に町外から多くの愛好者にお越しいただき、ゲートボールやグラウンドゴルフを楽しんでもらうことと同時に、若狭町の自然、歴史、食を体験していただく観光交流が出来たらと考えております。

これには施設の整備はもちろんです、継続的な全国大会などの開催や、特色あるおもてなしなどの工夫が必要になると思っておりますので、皆様のご支援をお願いするとともに、6年後の福井国体に向けて、ますます愛好者が増えていくことを期待しております。

広報クイズ

■応募方法■

キーワードを解いて、しりとりをしながら右回りにことばを入れてください。5つあるブルーのマス文字をアルファベット順に並びかえると、答えになります。ハガキに答えと広報紙の感想や意見、住所、氏名を書いて、「〒919-1393 若狭町総務課」（住所は省略可）まで送ってください。電子メールでも受け付けます（soumu@town.fukui-wakasa.lg.jp）。正解者の中から抽選で5人に図書カードをプレゼントします。当選の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。

締切 9月18日（火）必着。

◇キーワード◇

- ①オリンピックで各競技の優勝者に贈られるものは？
- ②北海道にある都市の名前で、アイヌ語のルルモツペが語源の「留萌」は何と読む？
- ③私たち広報担当者が使っているカメラもですが、ひとつのレンズがピントを合わせるファインダーレンズと撮影用のレンズを兼ねているレフレックスカメラのことを何かメラと言う？
- ④「フェニックス」を日本語で言うと？
- ⑤平成の名水百選に選ばれている、小浜市一番町の雲城公園に湧き出る水。
- ⑥戦国時代の近江国（滋賀県）の佐和山城主。関ヶ原の戦いでリーダー格として徳川家康に挑み、敗れた戦国武将の名前。
- ⑦野球で、前の投手に代わって投げる救援投手のことを英語で何という？



携帯でアクセス
メールでも応募してネ

【ヒント】

毎年、若狭町で行われる子ども行事です。今年は滋賀県から頑張って歩くぞ！

《答え》 ○○○○○ウォーク

①	D			②	
		⑥			③
E			B		
			⑦		
⑤		A		④	C

●前回の答え「ロサインブツ」①アサオ②オノノミチ③チャダイ④イズモ⑤モーツァルト⑥トデヒ⑦ニミヤジロ⑧ウタタネ